

STIHL GS 461

STIHL



2 - 28 取扱説明書



目次

1	はじめに.....	2
2	使用上の注意および作業方法.....	3
3	用途例.....	8
4	カッティング アタッチメント.....	10
5	ガイド バーおよびダイヤモンド研削チェンの の取り付け.....	11
6	ダイヤモンド研削チェンの張り方.....	12
7	ダイヤモンド研削チェンの張り具合の点検	12
8	燃料.....	13
9	給油.....	14
10	エンジンの始動と停止.....	15
11	作業中の注意事項.....	19
12	エアー フィルター システム.....	19
13	エアー フィルターの取り外し.....	19
14	エアーフィルターの掃除.....	20
15	キャブレターの調整.....	20
16	スパーク プラグ.....	21
17	機械の保管.....	22
18	ガイド バーの保守.....	22
19	チェン スプロケットの点検と交換.....	23
20	ダイヤモンド研削チェンの保守および目立 て.....	23
21	整備表.....	24
22	磨耗の低減と損傷の回避.....	25
23	主要構成部品.....	26
24	技術仕様.....	26
25	整備と修理.....	27
26	廃棄.....	27
27	EC 適合証明書.....	27
28	UKCA 適合宣言.....	28

お客様各位

この度は STIHL 社の製品をお買上げいただきまして誠に有難うございます。

この製品は、最新の製造技術と入念な品質保証処置を施して製造されました。私共は、お客様がこの製品を支障なく使用され、その性能に満足していただくために最善の努力を尽くす所存であります。

本製品に関してご不明な点がありましたら、お買上げの販売店または当社カスタマーサービスにお問い合わせください。

敬具




Dr. Nikolas Stihl

1 はじめに

1.1 ピクトグラム

機械に表示されているピクトグラムの意味は、本取扱説明書に説明されています。

機種によって以下のピクトグラムが機械に表示されている場合があります。

 燃料タンク - ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要



チェン回転方向



ダイヤモンド研削チェンが張る方向



デコンプレッサーの操作



給水コネクター、給水コック

1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

2 使用上の注意および作業方法



コンクリートカッターのチェンは超高速で回転するため、特別な安全措置を講じてケガの危険を低減する必要があります。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解し、必要なときに参照できるように安全な場所に保管してください。取扱説明書を遵守しないと、重傷または致命傷さえ負うことがあります。

現地で適用される安全規制(業界団体、社会保険機関、労働安全局等が定める規定)にすべて従ってください。

本機を初めて使用する場合: STIHL サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作法を教わるか、専門的な研修に参加してください。

未成年者には絶対に本機を使用させないでください - ただし、監督下で作業を進める 16 歳以上の訓練生は例外です。

子供、動物、見物人を近付けないでください。

機械を使用しないときは、他人に危険が及ばないように配慮して下に置いてください。機械が無断で使用されないよう対策を講じてください。

第三者の事故/負傷またはその所有物の損壊を防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。本機の利用者が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国、地域、現地の規則によって一日の特定の時間帯に制限されている場合があります。

機械の操作者は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、かかりつけ医に相談してから機械を使用してください。

ペースメーカー着用者向けの注意点: 本機のイグニッションシステムは微弱な電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを低減するために、STIHL 社ではペースメーカー着用者にかかりつけ医やペースメーカー製造業者に相談されることをお勧めしています。

動作を鈍らせるアルコール、薬物、薬剤を服用した状態では、本機を使用しないでください。

天候が悪い場合(風雨時や降雪時)は、**事故や負傷の危険を低減するために**、作業を延期してください。

本機は切削の目的にだけ使用してください。

本機を他の目的に使用しないでください - **事故が起きる危険があります!**

木材や木製品の切断には適していません。

アスベスト粉塵は、毒性が極めて強い物質です。そのため、本機をアスベストの切削には**絶対に使用しないでください!**

当社が本機に使用することを承認したか、技術的な仕様が同等のツール、ガイドバー、ダイヤモンド研削チェンまたはアクセサリーだけをご使用ください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。事故や本機の損傷を防ぐために、高品質の部品とアクセサリーのみを使用してください。

STIHL 社では、STIHL 純正のガイドバー、ダイヤモンド研削チェン、チェンスプロケットおよびアクセサリーの使用をお勧めしています。そうした純正品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

いかなる方法であれ、絶対に本パワーツールを改造しないでください。負傷する危険性が高まるおそれがあります。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物的損害に対して一切法的責任を負いません。

本パワーツールの清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷するおそれがあります。

2.1 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。ゆったりとした上着ではなく、つなぎ服等の身体にぴったりフィットする衣服を着用してください。

機械の可動部分に引っ掛かるおそれがある衣服(スカーフ、ネクタイ、装身具等)は避けてください。長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。



靴底が滑らない、爪先に鋼板の入った**安全靴**を履いてください。



警告



目を負傷する危険を低減するために、European Standard(欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが適切にフィットしていることを確認してください。

フェイスシールドを着用し、適切にフィットしているか確認してください。フェイスシールドだけでは眼を十分に保護できません。

「個人」用のイヤープロテクター (例えばイヤーマフ) を着用してください。

落下物で頭部を負傷する危険がある場合は、安全ヘルメットを着用してください。

切断中は、粉塵 (例えば切削物から排出される結晶性の物質)、ガス、煙が発生することがあります。**健康に害が及びます！**

粉塵が発生する場合は、必ず**防塵マスク**を着用してください。

ガスや煙が発生するおそれがある場合 (例えば複合材の切断時) は、**呼吸保護具**を着用してください。



耐性素材 (革など) でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護服や防護装備を取り揃えております。

2.2 機械の運搬

必ずエンジンを切ってから、チェーンガードを取り付けてください。

ハンドルバーだけを持って機械を運搬してください。ガイドバーを後ろに向け、熱くなったマフラーは身体から離してください。

重度の火傷を負わないよう、本機の高温になった部品、特にマフラー表面には触れないでください。

車両輸送：転倒、損傷、燃料漏れを防ぐために機械を適切に固定してください。

2.3 給油



ガソリンは可燃性が極めて高い液体です - 火気を近付けないでください。燃料をこぼさないでください。喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください。**燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。**

タンク内の高圧が徐々に抜け、燃料が噴き出さなくなるよう、燃料キャップは慎重に開けてください。

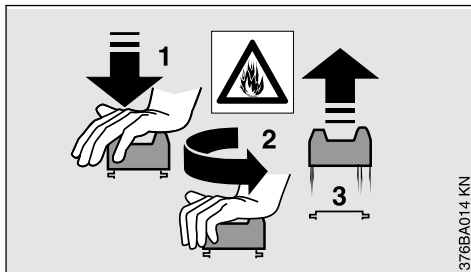
必ず換気の良い場所で給油してください。燃料がこぼれたときは、直ちに機械を清掃してください - 燃料が衣服にはね飛ばないように注意してください。燃料が衣服に付着したときは、速やかに着替えてください。

エンジンユニット、特にキャブレター周囲に粉塵が溜まる場合があります。粉塵が燃料と混ざると、火災が生じる危険があります。そのため、粉塵は常に取り除いてください。



燃料が漏れていないか点検してください！燃料がこぼれたり、漏れたりしている場合は、絶対にエンジンを始動しないでください。致命的な火傷を負う危険があります！

2.3.1 バイオネット式燃料キャップ



絶対に工具を使用してバイオネット式燃料キャップを開閉しないでください。キャップが破損し、燃料が漏れ出すおそれがあります。

給油後は、バイオネット式燃料キャップを慎重に閉めます。

2.4 ダイヤモンド研削チェン

ダイヤモンド研削チェン、ガイドバー、チェンスプロケットは適切な組み合わせで使用し、使用するコンクリートカッターに適合しているか確認してください。

承認されたダイヤモンド研削チェンのみを使用してください。承認されていないチェンを使用すると、切断時にトラブルが生じやすくなります。その結果、コントロールできない、非常に危険な反発力 (キックバック) が生じることがあります。**致命傷を負うおそれがあります！**

特定の材料に対応したダイヤモンド研削チェンのみを使用してください。ダイヤモンド研削チェンの記号に注意してください。

必ず給水しながら切断してください。

使用済みのダイヤモンド研削チェンを装着する前に、亀裂や欠けがある部分、損傷や欠落が生じている部分、過熱の兆候 (変色) がないか確認してください。

亀裂や欠けが生じている部分があるダイヤモンド研削チェンは、絶対に使用しないでください。

2.5 作業開始前

コンクリートカッターが適切に組み立てられ、正常な状態になっているか以下を点検してください。本取扱説明書の関連項目を参照してください：

- 燃料システム、特に燃料タンクキャップ、ホースコネクター、手動燃料ポンプ (手動燃料ポンプ付きの機械のみ) 等の目視が可能な部品が漏れていないか点検します。漏れや損傷が生じている場合は、エンジンを始動しないでください。**火災が起きる危険があります！** サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- 前ハンドガードが正常に作動するか点検します。
- チェンスプロケットを点検します。
- スプロケットノーズが簡単に動くか確認します。
- ガイドバーが正しく装着されているか確認します。
- ダイヤモンド研削チエンが切断する素材に適しているか確認します。正常かつ適切に取り付けられている (回転方向が適正になっている) 必要があります。
- ダイヤモンド研削チエンに適切な張力が掛かっているか確認します。
- スロットルトリガーとスロットルトリガーロックアウトがスムーズに作動するか点検します。スロットルトリガーは自動的にアイドル位置に戻らなければなりません。
- マスターコントロールレバーを **STOP** または **0** に動かすことができるか確認します。
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているか点検します。緩んでいると、火花が発生して可燃性ガスに引火し、**火災が生じるおそれがあります！**
- 絶対に操作部や安全装置を改造しないでください。
- ハンドルをオイルや汚れの付着していない、乾いた清潔な状態に保ちます。この点は、コンクリートカッターを安全に制御するために重要です。

正常に作動するコンクリートカッターのみを使用してください。そうしないと**事故が起きるおそれがあります！**

2.6 エンジンの始動

給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。

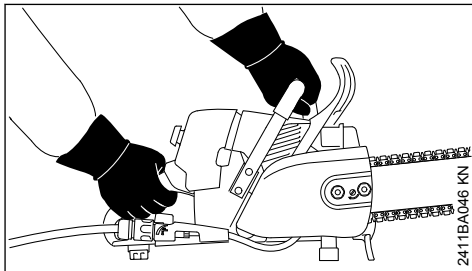
本機を平坦な地面に置いてください。常に安定した足場を確保して、本機を確実に保持します。エンジン始動時に回転し始めることがあるため、ダイヤモンド研削チエンを障害物や地面に接触させたり、切り口に差し込んだりしないでください。

一人の作業者のみが機械を操作します。他者を作業エリアから立ち退かせます。始動時と同様です。

エンジンの落としがけをしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。

始動前に給水バルブを完全に開き、ダイヤモンド研削チエンに確実に給水します。ダイヤモンド研削チエンは乾いた状態で使用しないでください。

2.7 機械の保持と操作



機械を、必ず**両手でしっかりと**保持してください：左利きの場合でも右手で後ハンドルを握ります。安全に操作するために、両方のハンドルを手のひらで包み込むように握ってください。

切削物は、確実に支持する必要があります。常に本機を切削物の方向へ押し、引き寄せないでください。

2.8 作業時

バランスと安定した足場を確保してください。

危険が差し迫っている場合や緊急時は、マスターコントロールレバーを **STOP** または **0** に動かし、速やかにエンジンを切ります。

本パワーツールは、一人で操作するように設計されています。作業エリアには第三者を立ち入らせないでください。

切り口や切れ込み等では特に注意してください。誰かが背後に立っていることがあります。事前に確認してください。

作動させたまま絶対に本機から離れないでください。

エンジン作動中は、スロットルトリガーを放しても、ダイヤモンド研削チエンはしばらく回転し続けます。**慣性回転効果によって負傷するおそれがあります！**

氷、水、雪、不整地では**滑りやすい**ため注意してください！

はしごの上に立った状態で作業しないでください。不安定な足場上での作業、肩より高い位置での作業、片手での作業も避けてください。**事故が起きる危険があります！**

作業エリアから不要物を取り除きます。障害物、穴、勾配に注意してください。

一人で作業しないでください。助けが必要になった場合に、声を出せば人が援助に来ることができる範囲内で作業してください。

イヤープロテクターを着用している場合は、危険を告げる声（叫び声、警笛等）が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

疲労を感じたときは休憩を取ってください。そうしないと**事故が起こるおそれがあります！**

高温の排気ガスや高温のマフラーは、燃えやすい物に近付けないでください。**火災が生じる危険があります！**触媒コンバータ付きマフラーは、特に高温になります。



エンジンが始動するとすぐに、パワーツールから有毒な排気ガスが発生します。排気ガスは無臭で目に見えない場合があります、未燃焼の炭化水素とベンゼンが含まれているおそれがあります。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

有毒ガスを吸い込んで重傷または致命傷を負う危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場所での作業時は適切に換気してください。これにより、有毒ガスを吸引することによる重傷や致命傷を負う危険を低減できます。

吐き気、頭痛、視覚障害（視野狭窄等）、聴覚障害、めまい、注意散漫が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。濃度が非常に高い排気ガスを吸い込むと、そうした症状が現れる場合があります。**事故が生じるおそれがあります！**

火災の危険を低減するために、作業中や機械の付近では**喫煙は避けてください**。燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがあります。

ダイヤモンド研削チェンを短い間隔で定期的に検査して、亀裂が入った部分、欠けた部分、損傷または欠落している部分、過熱の兆候（変色）がないことを確認してください。

亀裂や欠けが生じている部分があるダイヤモンド研削チェンは、絶対に使用しないでください。

切れ具合が明らかに変化した場合（振動が増す、切れ味が悪くなる等）、作業を中断し、変化の原因を解消してください。

- エンジンを切り、ダイヤモンド研削チェンが静止するまで待ちます。
- ダイヤモンド研削チェンの状態と張り具合を点検します。
- ダイヤモンド研削チェンが鋭利な状態か確認します。

エンジン作動中は、絶対にダイヤモンド研削チェンに触れないでください。ダイヤモンド研削チェンが物体に挟まった場合は、直ちにエンジンを切ってから物体を取り除く作業を試みてください。そうしないと**ケガをする危険があります！**

ダイヤモンド研削チェンの交換時は、エンジンを切ってください。そうしないと**ケガをする危険があります！**

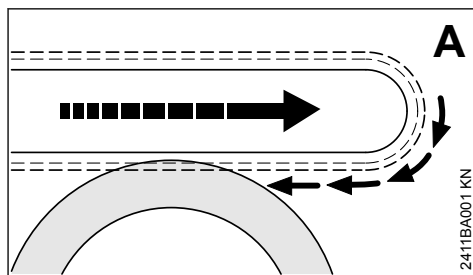
パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった（強い衝撃が加わるか、落下した）場合、必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください（「作業開始前」を参照）。特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が完全に作動しているか確認してください。パワーツールが損傷している場合は、作業を続けないでください。ご不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

アイドリングが正常かどうか点検し、スロットトリガーを放したときにダイヤモンド研削チェンが停止するか確認します。定期的にアイドル回転数の設定を点検し、修正してください。それでもダイヤモンド研削チェンが回転し続ける場合は、STIHL サービス店に機械の修理を依頼してください。

2.9 反発力

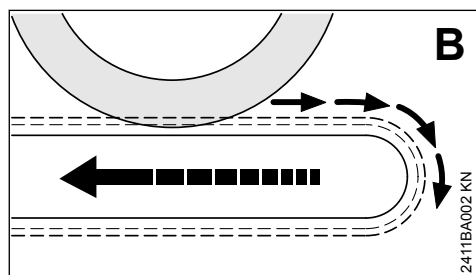
プルインおよびプッシュバックは、最も頻繁に発生する反発力です。

2.9.1 プルイン (A)

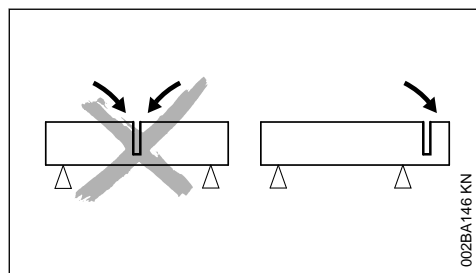


ガイドバーの下部にあるダイヤモンド研削チェンが引っ掛かったり（上から下への切断時）、堅い物体に当たったりしたときに、コンクリートカッターが作業対象物に向かって突然前方に引かれることがあります。

2.9.2 ブッシュバック (B)



ガイドバーの上部にあるダイヤモンド研削チェーンが引っ掛かったり(下から上への切断時)、堅い物体に当たったりしたときに、コンクリートカッターが作業者に向かって突然まっすぐに戻ることがあります。



- ー ガイドバーが挟まらないように注意してください
- ー 切断物が動いたり、他の要因で切り口が閉じたりしてダイヤモンド研削チェーンが挟まる状況を常に想定して作業を行ってください。
- ー 切断中や切断後に切り口が閉じないように、切断物を固定し、支持してください。
- ー 切り口の中でガイドバーをねじらないでください。

2.10 切断作業

ダイヤモンド研削チェーンには十分な水を供給してください。ダイヤモンド研削チェーンは乾いた状態で作動させないでください。

切断対象物の材質に関わらず、常に湿式切断を行ってください。

ダイヤモンド研削チェーンは、無理に押し込まず、切り口内でまっすぐに進めます。ダイヤモンド研削チェーンに側圧を加えないでください。

側面の研削やスクラビングに使用しないでください。

始動ポジションで切断作業を行わないでください。このポジションでは、エンジン回転数を調整できません。

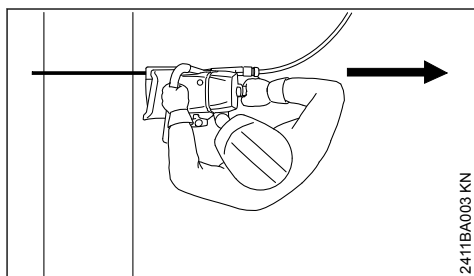
作業場所を調べます。配管や電気配線の損傷によって生じる危険をすべて排除します。

燃えやすい物質やガスの近くで使用しないでください。

揮発物や可燃物が入っていないことが確認されるまでは、パイプ、金属製タンク、他の容器の切断に着手しないでください。

エンジンを作動させたまま機械から離れないでください。(例えば休憩のために) 機械から離れるときは、エンジンを切ってください。

冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なとき以外は作業を行わないでください。他者に危険が及ばないか確認します。常に注意を怠らないでください。



身体のいずれの部分もダイヤモンド研削チェーンの移動範囲の延長線上から十分に離してください。

必ずダイヤモンド研削チェーンを回転させた状態でコンクリートカッターを切断物から引き出してください。

コンクリートカッターは切断のみに使用してください。こじったり、すくい取ったりする作業には使用しないでください。

常に切断方向を決めてから、コンクリートカッターの位置を決めてください。作業中は切断方向を変更しないでください。切断口に機械を押し込んだり、叩き入れたりしないでください。コンクリートカッターを切断深さまで落とさないでください。**損傷する危険があります！**

切断性能が低下し始めたら、ダイヤモンド研削チェーンの切れ味を点検して、必要に応じて目立てをします。そのためには、例えば砥石、気泡コンクリート、アスファルト等の研磨材をしばらく切断します。

高所で作業する場合：

- ー 常にリフトバケットから作業します。
- ー はしごに乗った状態では、絶対に本機を使用しないでください。

- 足場が不安定な場所では絶対に作業しないでください。
- 肩の高さより上にあるものを切断しないでください。
- 本機は絶対に片手で使用しないでください

コンクリートカッターをフルスロットルにしてから切断を開始してください。

切断が完了すると、コンクリートカッターは切り口内でカッティングアタッチメントによって支持されなくなります。作業者が機械の重量を支える必要があります。**制御できなくなる危険があります！**

通電中の電線は、水や汚泥に近付けないでください。**感電する危険があります！**

2.11 振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろう病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護（暖かい手袋）
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質（症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く）。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ（握む力が強いと血行が低下します）。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状（指のしびれ等）が繰り返し発症する時は、医師による診断をお勧めします。上記のいずれかの症状が現れたら（指が疼くなど）、医師にご相談ください。

2.12 整備と修理

本機は定期的に整備する必要があります。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業は、販売店に依頼してください。

当社では、整備や修理をスチール認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。スチール販売店では定期的にトレーニングを受け、適切な技術情報の提供を受けています。

高品質のスペアパーツのみを使用します。そうしないと、事故や本機の損傷の恐れがあります。不明な場合は、サービス店にお問い合わせください。

スチール純正スペアパーツのみをご使用いただくように、お勧めします。これらの部品は、本機に対しても、利用者のご要望に対しても、最適化されています。

本機の整備または修理をする前、および本機を排除する前には、必ず**エンジンを停止してください** - **ケガの危険があります！** - 例外：キャブレター調整およびアイドルリング スピード調整時は、このかぎりではありません。

スパーク プラグ ターミナルを取り外したり、スパーク プラグを緩めたまま、スターターでエンジンを始動すると、シリンダー外部でイグニッション スパークが生じて**火災の危険**があるので、その前にスライド コントロールを **STOP** または **0** に移動してください。

火気の近くで調整したり保管しないでください - 燃料を搭載していますので、**火災の恐れ**があります。

燃料キャップがしっかり閉まっていることを、定期的に点検してください。

欠陥のない、当社が承認したスパークプラグのみを使用します - 「技術仕様」を参照してください。

イグニッション ケーブルに異常がないこと（絶縁状態、接続の確実性）を確認してください。

マフラーに問題が無いことを確認してください。

破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま、本機を使用しないでください。**火災の恐れがあります！ - 聴力にも支障を来します！**

絶対に加熱されたマフラーに触れないでください - **火傷の危険があります！**

防振装置の状態は振動に影響します - 防振装置を定期的に点検してください。

2.12.1 エンジンを停止します

- チェンの張りを点検します
- チェンの張りを締め直します
- チェンを交換します
- 不具合があれば修正します

3 用途例



ダイヤモンド研削チェンは、必ず水のある状態で使用してください。コンクリート カッターを給水ネットワークに接続します（最低 1.5 bar）。

導入された水は、ダイヤモンド研削チェンを冷却し、カッティング アタッチメントを洗い、粉塵の発生を抑えるために使用されます。

作業終了後、コンクリート カッターを水を掛けながら運転速度で動作させ、カッティング アタッチメントを洗います。

水圧や水量が不足している場合、摩耗が著しく増加し、修復不可能な損傷がカッティング アタッチメントに発生します - **破損の危険があります!**

3.1 切断対象物

- － しっかり保持します
- － 転がったり、滑ったりしないように固定します
- － 振動を回避します

3.2 切り離された部分

開口部、溝などの場合、切断手順が重要です。最後の切り込みはかならず、ダイヤモンド研削チェーンが挟まらず、操作者が切り離した部分や分離した部分でケガをしないように、実施します。

必要に応じて楔を使用し、必要に応じて分離する部分を保持する小さい背の部分を、所定の位置に残しておきます。これらの背の部分は後で割ります。

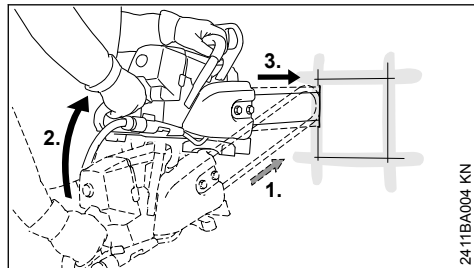
最後に切り離す前に、以下のことを見極めます：

- － 該当部分の重量はどれくらいか
- － 切り離し後、どのように動くか
- － 張りが加わっているか

切り込み部分の切り離し時に、補佐する人が危険に晒されないようにしてください。

3.3 突っ込み切り

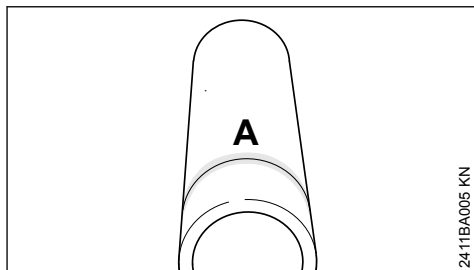
コンクリート カッターをフルロットルにして、切断を開始してください。



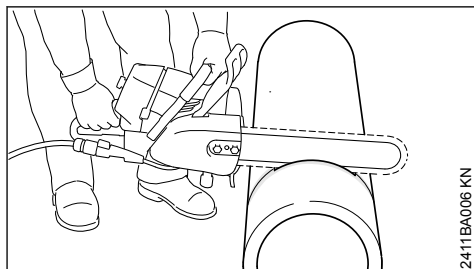
1.ガイド バー先端の下部を当てます 2.突っ込み切り位置までゆっくり回転させます 3.慎重に突っ込み切りを行います

突っ込み切りを既存の狭い接合部分に対して行うときは、細心の注意を払って作業してください。

3.4 数回に分けた切断

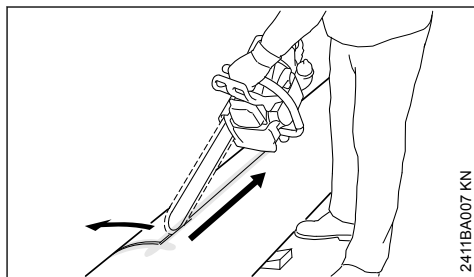


- ▶ 切り込み線 (A) をマークします



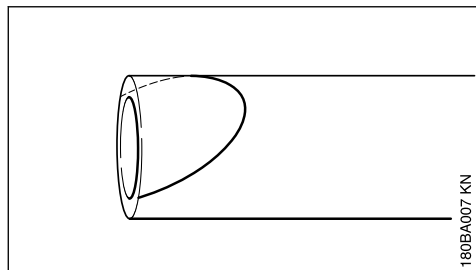
- ▶ 切断線に添って作業します。切断方向を修正するとき、ダイヤモンド研削チェーンを傾けないで、必ずもう一度位置調整してください

3.5 円形および中空の物体の切断



- ▶ 転がらないように、パイプ、円形対象物などを固定します
- ▶ 切断線をマークします - 切断線を決定するとき、特に切断方向に補強物がないようにします
- ▶ 慎重に突っ込み切りを行います
- ▶ 切断線に沿って切り込み深さいっぱいまで差し込みます - 方向をわずかに修正する場合、ダイヤモンド研削チェーンを傾けるのではなく、必ずもう一度位置を調整します - 必要に応じて楔を使用し、必要に応じて切り離し部分を保持する小さい背の部分を適切な位置に残しておきます。これらの背の部分は後で割ります

3.6 パイプの成形

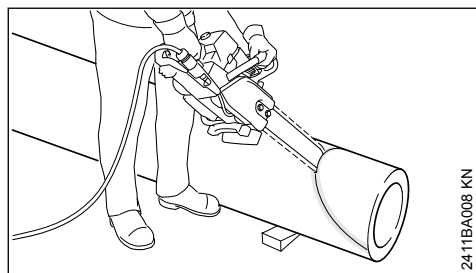


- ▶ 転がらないように、パイプ、円形対象物などを固定します
- ▶ 切断線をマークします - 切断線を決定するとき、特に切断方向に補強物がないようにします



危険

この線に添って手持ちで切断する場合、特別の注意と正確さがが必要です。

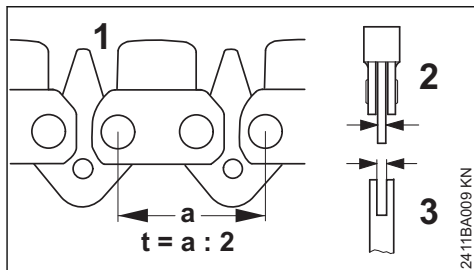


- ▶ パイプ、円形切断物などの切断には、切断線の端部から開始して、素材が破損しないようにします
- ▶ 先端部および両端の外側への切断時は、先端で細心の注意を払って突っ込み切りをし、両側の外側に向けて削ります。切断線に沿って切り込み深さまで差し込みます - 方向をわずかに修正する場合、ダイヤモンド研削チェンを傾けるのではなく、必ずもう一度位置を調整します - 必要に応じて楔を使用し、必要に応じて切り離し部分を保持する小さな背の部分を適切な位置に残しておきます。これらの背の部分は後で割ります

4 カutting アタッチメント

カutting アタッチメントは、ダイヤモンド研削チェン、ガイドバー、チェンスプロケットで構成されています。

納入されるカutting アタッチメントは、コンクリートカッター用に最適化されています。



- ダイヤモンド研削チェン (1) のピッチ (t) は、チェンスプロケット、Rollomatic (ローロマチック) ガイドバーのスプロケットノーズのピッチと一致していなければなりません。
- ダイヤモンド研削チェン (1) のドライブリンクゲージ (2) は、ガイドバー (3) の溝幅と一致していなければなりません。

互いに互換性のないコンポーネントの組み合わせは、短時間使用しただけでカutting アタッチメントに修理不能な損傷を生じさせることがあります。

4.1 ダイヤモンド研削チェン

STIHL ダイヤモンド研削チェンは適切に使用すると、費用を抑え、摩耗が進むのを防ぐことができます。

STIHL ダイヤモンド研削チェンは、次の素材の切断に適しています。

- コンクリート
- 鉄筋コンクリート
- 一般的なブロック類
- 石造物
- 石材
- 延性鑄鉄製パイプ
- 研磨性の石材*、アスファルトやレンガ (砂岩) など
- 硬質石材*、花崗岩*

*) 出力が制限されたり、耐用年数が短縮されたりすることがあります。

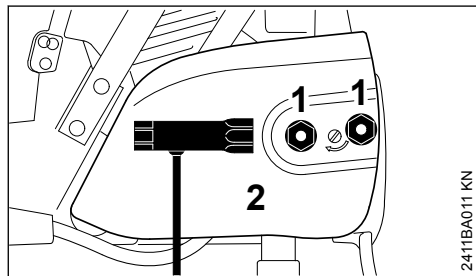
他の素材は切断しないでください。**事故が起きるおそれがあります！**

4.2 チェン ガード

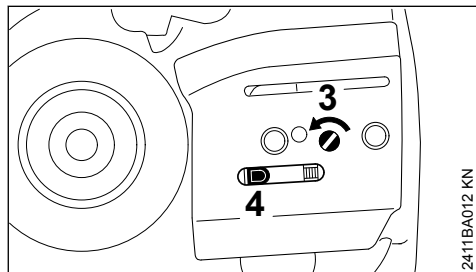
製品内容には、バーおよびチェンに適したチェンガードが含まれます。

5 ガイド バーおよびダイヤモンド研削チェンの取り付け

5.1 チェンスプロケットカバーの取り外し

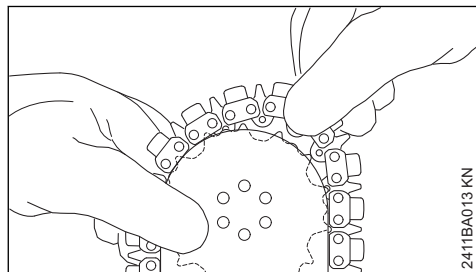


- ▶ スタッドからナット (1) を取り外します。ナットは、チェンスプロケットカバーが失われないう固定しています。
- ▶ チェンスプロケットカバー (2) を取り外します。

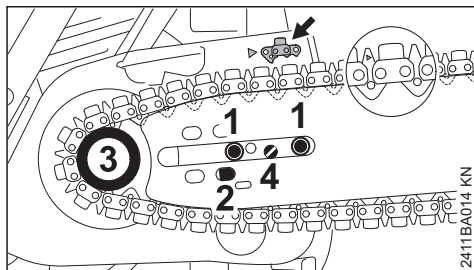


- ▶ テンショナーズライド (4) がハウジングスロットの左端に当たるまでスクリュー (3) を左側にまわします。

5.2 ダイヤモンド研削チェンの取り付け



- ▶ ガイドバーの先端からダイヤモンド研削チェンを取り付けます。



- ▶ ガイドバーをボルト (1) に通します。記号 (矢印) の位置に合わせてドライプリングを位置決めします。



ドライプリングが互いに適切な位置に配置されていないと、ダイヤモンド研削チェンとチェンスプロケットに修理不能な損傷が生じます。

注記

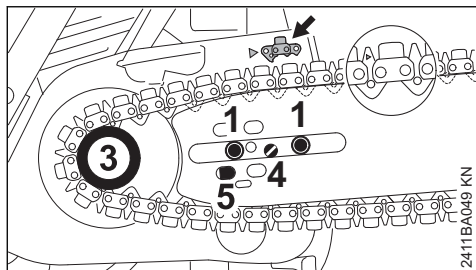
ダイヤモンド研削チェン 36 GGM は、どちら向きにも装着できます。

- ▶ テンショナーズライドのベグを右側位置決め穴 (2) にはめ、同時にダイヤモンド研削チェンをスプロケットホイール (3) に装着します。
- ▶ バー下側でダイヤモンド研削チェンのたるみがほとんどなくなるまで、スクリュー (4) を右側にまわします。ドライプリングの突起がガイドバーの溝にかみ合っているか確認してください。
- ▶ スプロケットカバーを元通りに取り付け、ナットを指で締め付けます。
- ▶ 「ダイヤモンド研削チェンの張り方」の章を参照してください。

5.3 ガイドバーの位置調整

ダイヤモンド研削チェンを適切に張ることができないときのみガイドバーの位置を調整してください。

- ▶ チェンスプロケットカバーの取り外し
- ▶ ガイドバーをダイヤモンド研削チェンと共に取り外します。
- ▶ ガイドバーの先端からダイヤモンド研削チェンを取り付けます。



- ▶ ガイドバーをボルト (1) に通します。記号 (矢印) の位置に合わせてドライプリングを位置決めします。

警告

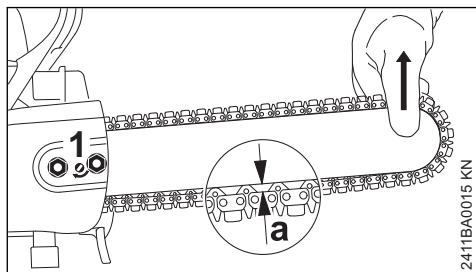
ドライプリングが互いに適切な位置に配置されていないと、ダイヤモンド研削チェーンとチェンスプロケットに修理不能な損傷が生じます。

注記

ダイヤモンド研削チェーン 36 GGM は、どちら向きにも装着できます。

- ▶ テンショナースライドのペグを左側位置決め穴 (5) にはめ、同時にダイヤモンド研削チェーンをスプロケットホイール (3) に装着します。
- ▶ バー下側でダイヤモンド研削チェーンのたるみがほとんどなくなるまで、スクリュー (4) を右側にまわします。ドライプリングの突起がガイドバーの溝にかみ合っているか確認してください。
- ▶ スプロケットカバーを元通りに取り付け、ナットを指で締め付けます。
- ▶ 「ダイヤモンド研削チェーンの張り方」の章を参照してください。

6 ダイヤモンド研削チェーンの張り方



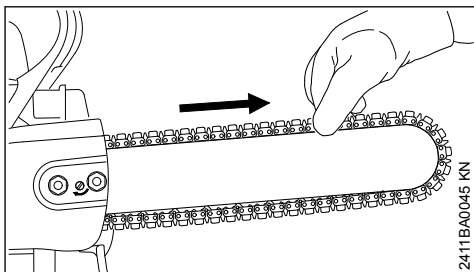
切断作業中のチェーンの張り調整方法

- ▶ エンジンを切ります。
- ▶ 作業用手袋を着用して手を保護します。

- ▶ ナットを緩めます。
- ▶ ガイドバーの先端を持ち上げます。
- ▶ (a) = 約 5 mm になるよう、ドライバーでスクリュー (1) を右側へまわします。

ダイヤモンド研削チェーンが延びたために距離 (a) = 約 5 mm を達成できないときは、ガイドバーの位置を調整してください。「ガイドバーおよびダイヤモンド研削チェーンの取り付け」の章を参照してください。

- ▶ ガイドバーをさらに持ち上げ、ナットを確実に締め付けます。

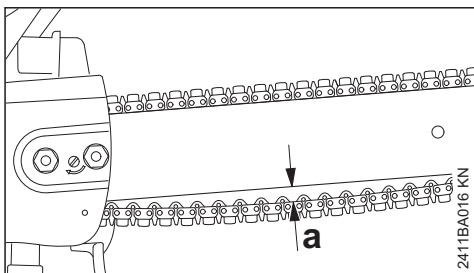


- ▶ ダイヤモンド研削チェーンの張りを点検します。ダイヤモンド研削チェーンをガイドバーから手で引き上げることができるならば、張り具合は適正です。

新品のダイヤモンド研削チェーンは、しばらく使用したチェーンよりも張りを頻繁に調整する必要があります。

- ▶ チェーンの張りは頻繁に点検してください。「作業中の注意事項」の項を参照。

7 ダイヤモンド研削チェーンの張り具合の点検



- ▶ エンジンを切ります。
- ▶ ダイヤモンド研削チェーンの最大たるみ寸法は、a = 15 mm です。
- ▶ 必要に応じてダイヤモンド研削チェーンの張りを再調整します。「ダイヤモンド研削チェーンの張り方」の章を参照してください。

ダイヤモンド研削チェンがたるみが過剰な場合は、カッティングアタッチメントの摩耗が著しく進みます。

新品のダイヤモンド研削チェンは、しばらく使用したチェンよりも張りを頻繁に調整する必要があります。

▶ チェンの張りは頻繁に点検してください。「作業中の注意事項」の項を参照。

8 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



警告

健康に害が及ぶため、ガソリンに直接触れたり、気化したガソリンを吸い込んだりしないでください。

8.1 STIHL モトミックス (MotoMix)

STIHL 社は、STIHL モトミックス (MotoMix) の使用をお勧めしています。すぐに使用可能なこの混合燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価です。この燃料を使用すると、常に適正な混合比率を維持することができます。

STIHL モトミックス (MotoMix) には、エンジンをさらに長寿化させる STIHL HP ウルトラ 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

STIHL モトミックス (MotoMix) が販売されていない市場もあります。

8.2 燃料の混合

注記

規定以外の不適切な燃料/オイルを使用するか、規定以外の混合比率を用いると、エンジンに重度の損傷が生じることがあります。低品質のガソリンあるいはエンジンオイルは、エンジン、シーリングリング、ホース、燃料タンクを損傷させることがあります。

8.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の高品質ブランドのガソリンだけを使用してください - 無鉛、有鉛は問いません。

エタノール濃度が 10% 以上のガソリンは、手動調整が可能なキャブレター付きエンジンで作動関連の不具合を引き起こすことがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、エタノール濃度が 25% までのガソリン (E25) で最大出力を発揮できます。

8.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 製 2 ストロークエンジンオイルのみを使用するか、次の仕様を満たす他の高性能エンジンオイルを使用してください: JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC、または ISO-L-EGD。

機械の耐用年数にわたって排気ガスが規制の限度値を超えないよう、STIHL 社は STIHL HP ウルトラ 2 ストロークエンジンオイルの使用をお勧めしています。

8.2.3 混合比率

50:1 (STIHL 2 サイクルエンジンオイルの場合):
50:1 = ガソリン 50 に対してオイル 1

8.2.4 例

ガソリン リットル	STIHL エンジンオイル (比率 50:1) リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

▶ 燃料の保管には承認された容器を使用してください。燃料容器にまずオイルを入れてからガソリンを入れ、十分に混ぜ合わせます。

8.3 燃料の保管

燃料は承認された安全タイプの燃料容器に入れ、照明や太陽光から保護された、涼しく安全で乾燥した場所に保管してください。

混合燃料は劣化します - 数週間で使い切る分だけを混合してください。混合燃料を 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、高低温にさらすと、混合燃料は短期間で使用できなくなる場合があります。

STIHL モトミックスは、問題なく最長 2 年間保管することができます。

▶ 給油する前に混合燃料の入った携行缶をよく振ってください。



警告

携行缶内で圧力が生じている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

▶ 燃料タンクと携行缶は、時々十分に洗浄してください。

残ったガソリンと洗浄に使用した液体は、その地域の規定と環境要件に従って適切に処理してください。

9 給油



9.1 準備

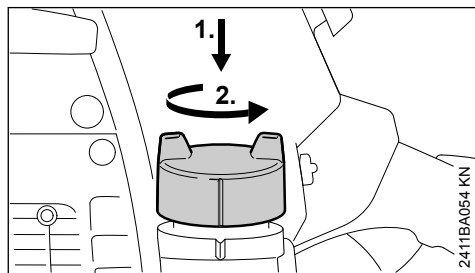
- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐために、タンクキャップとその周囲を清掃してください。
- ▶ タンクキャップが上を向くように本機を置いてください。



警告

バイonet式燃料キャップを開けるために、工具は絶対に使用しないでください。キャップが損傷し、燃料漏れの原因になるおそれがあります。

9.2 キャップの開け方

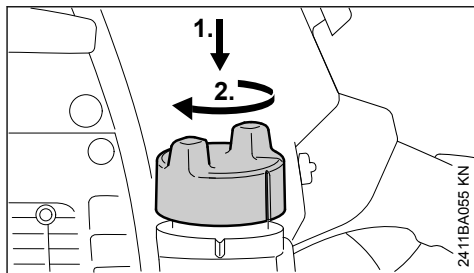


- ▶ 燃料キャップを止まるまで押し込んでから、時計回りに約 1/8 回転させ、取り外します。

9.3 燃料の補充

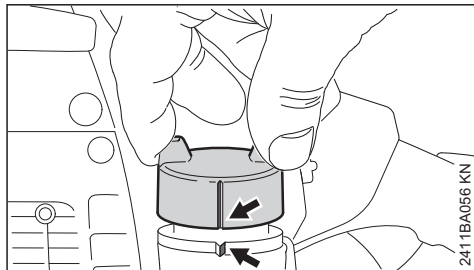
給油時は、燃料をこぼしたり、あふれさせたりしないよう注意してください。STIHL 社では、燃料用 STIHL フィラーノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めしています。

9.4 キャップの閉め方



- ▶ タンクの開口部にキャップを載せ、所定の位置に入るまで回します。
- ▶ 燃料キャップを手で止まるまで押し込み、かみ合うまで時計回りに約 1/8 回転させます。

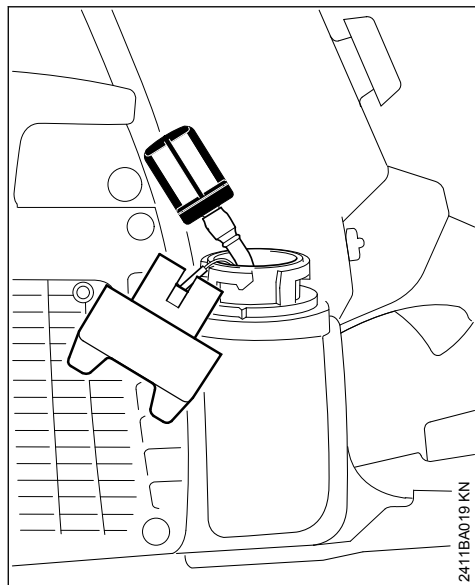
9.5 キャップの閉まり具合確認



- ▶ キャップをつかんで確認します - キャップと燃料タンク上のマーク (矢印) が合い、引いても外れなければ、キャップは適切にロックされています。

キャップを引くと外れるか、マークが合っていないときは、再び取り付けてください - 「キャップの閉め方」と「キャップの閉まり具合確認」を参照してください。

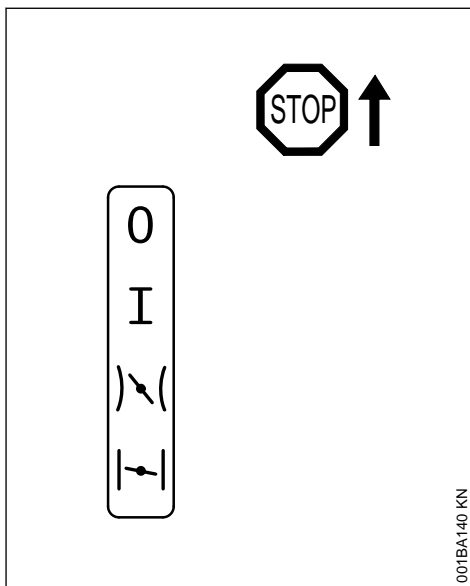
9.6 燃料ピックアップボディの交換 (毎年)



- ▶ 燃料タンクを空にします。
- ▶ 燃料ピックアップボディをフックでタンクから引き出し、ホースから外します。
- ▶ 新しいピックアップボディをホースに差し込みます。
- ▶ ピックアップボディをタンクの中に戻します。

10 エンジンの始動と停止

10.1 マスターコントロールレバーの 4 つの位置



STOP または **0** – エンジン停止、イグニッションがオフの状態

通常運転位置 I – エンジンが作動中または始動可能

暖機スタート (↘) – 暖機されたエンジンの始動用位置

冷機スタート (↙) – 冷えているエンジンの始動用位置

10.2 マスターコントロールレバーの 調整

スロットルトリガーロックアウトとスロットルトリガーを同時に押し、マスターコントロールレバーを運転位置 I から冷機スタート位置 ↙ に動かします。

マスターコントロールレバーを暖機スタート位置 ↘ に合わせるには、まず冷機スタート位置 ↙ に設定してから暖機スタート位置 ↘ に押し込みます。

暖機スタート位置 ↘ への変更は、冷機スタート位置 ↙ からのみです。

スロットルトリガーを握ると、マスターコントロールレバーが暖機スタート位置 ↘ から運転位置 I に戻ります。

エンジンを切るには、マスターコントロールレバーを **STOP** または **0** に合わせます。

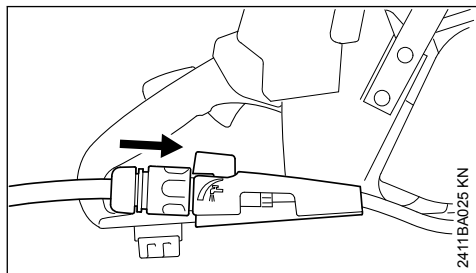
10.2.1 チョークシャッター閉位置 **ト**

- エンジンが冷えている
- 始動後にスロットルを開くとエンジンがストールする
- 燃料タンクが空になるまで運転した(エンジンが停止した)

10.2.2 ハーフスロットル位置 **ト**

- エンジン暖機後(エンジンを約 1 分間作動させた)
- エンジンが初爆した
- 燃料を吸い込みすぎた燃焼室を換気した後

10.3 コンクリートカッターを給水網に接続

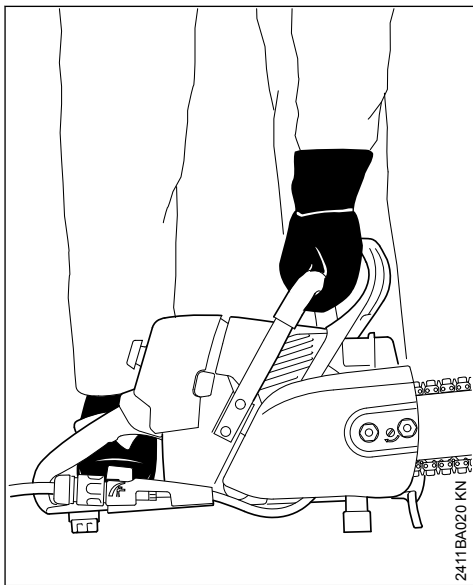


- ▶ コンクリートカッターを給水網 (最低 1.5 bar@6 L/分) に接続します。
- ▶ 始動前に、給水バルブ (矢印) を完全に開きます。

10.4 コンクリートカッターの保持

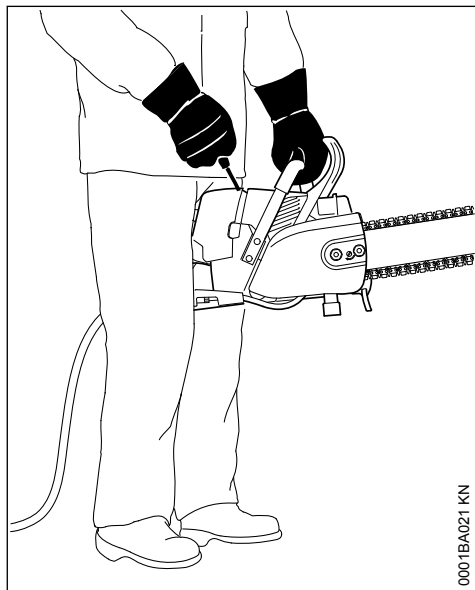
始動時のコンクリートカッターの保持方法には、次の 2 種類があります。

10.4.1 地面に置く方法



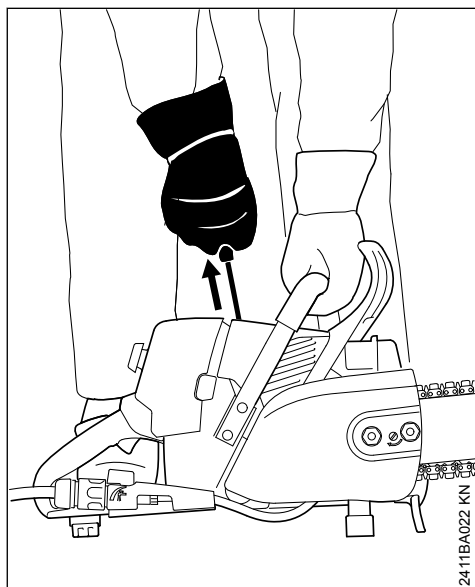
- ▶ コンクリートカッターを安定した地面に置き、足場が堅固が確認します。ダイヤモンド研削チェンを物体や地面に接触させないでください。
- ▶ 親指をかけて左手で前ハンドルを握り、コンクリートカッターを地面に確実に押し付けます。
- ▶ 右足で後ハンドルを確実に押さえます。

10.4.2 膝の間



- ▶ 膝または太ももで後ハンドルを挟みます。
- ▶ 左手で前ハンドルを確実に握ります。親指がハンドルの下側に来るようにします。

10.5 始動



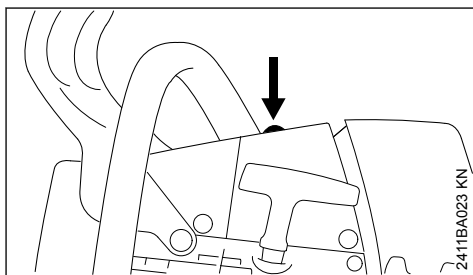
- ▶ スターターグリップを右手でゆっくりと引き、かみ合った感じがした時点で勢いよく引っ張

ります。同時に前ハンドルを下側に押し付けてください。スターターロープは最後まで引き出さないでください。**切れるおそれがあります。**スターターグリップを急に放さないでください。適切に巻き込まれるよう、手を添えてスターターロープをハウジングにゆっくりと巻き込みます。

10.6 コンクリートカッターの始動

始動前に、ダイヤモンド研削チェーンに給水されるよう給水コックを全開にします。チェーンは絶対に乾いた状態で使用しないでください。

10.6.1 デコンパバルブ

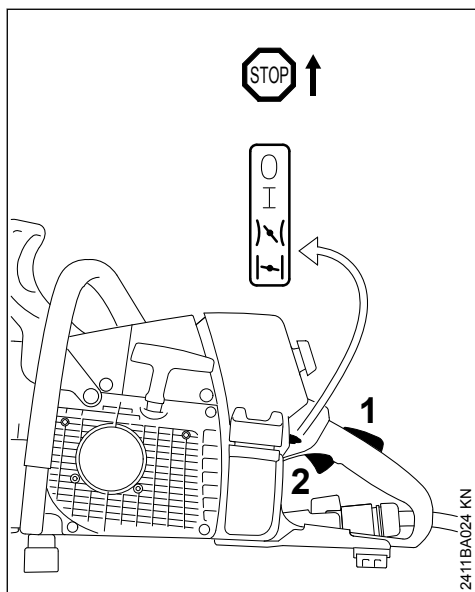


- ▶ ボタンを押すと、デコンパバルブが開きます。

デコンパバルブは、エンジンが点火されると直ちに閉じます。そのため、毎回始動前に必ずこのボタンを押してください。

**警告**

コンクリートカッターの操作エリアには誰も立ち入らせないでください。



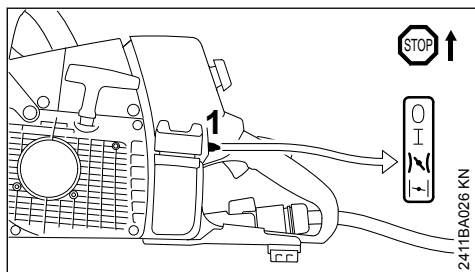
- ▶ スロットルトリガーロックアウト (2) とスロットルトリガー (3) を同時に握ります。マスターコントロールレバーを次のように設定します。

チョークシャッター閉位置 Ⅰ

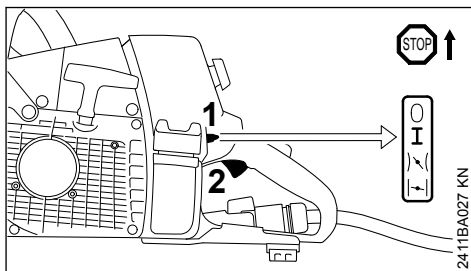
- エンジン冷間時 (始動後にスロットルを開くとエンジンがストールする場合)

ハーフスロットル位置 Ⅱ

- エンジン暖機後 (エンジンを約 1 分間作動させた後)
- ▶ コンクリートカッターを保持し、始動します。

10.7 エンジンが初爆したら

- ▶ マスターコントロールレバー (1) を暖機スタート位置 Ⅱ に合わせます。
- ▶ ボタンを押し、デコンパバルブを開きます。
- ▶ コンクリートカッターを保持し、始動操作を続行します。

10.8 エンジン始動直後

- ▶ スロットルトリガー (2) を軽く握ります。マスターコントロールレバー (1) が運転位置 Ⅰ に戻り、エンジンがアイドリング状態になります。

以上でコンクリートカッターの使用準備が整いました。

10.9 外気温が極めて低いときは

- ▶ エンジンが十分に暖められるまで、スロットルをわずかに開いておきます。

10.10 エンジンを切るには

- ▶ マスターコントロールレバーを STOP または 0 位置に合わせます。

10.11 エンジンが始動しないときは

エンジンの初回始動直後にマスターコントロールレバーを暖機スタート位置 Ⅱ に戻さなかった場合、エンジンの燃料吸い込み量が過剰になっています。

- ▶ スパークプラグを取り外します。「スパークプラグ」を参照してください。
- ▶ スパークプラグを乾かします。
- ▶ マスターコントロールレバーを STOP または 0 位置に合わせます。
- ▶ 燃焼室を換気するためにスターターロープを数回引っ張り、エンジンをクランキングさせます。
- ▶ スパークプラグを再び取り付けます。「スパークプラグ」を参照してください。
- ▶ マスターコントロールレバーを暖機スタート位置 Ⅱ に合わせます。エンジンが冷えている場合も同様です。
- ▶ エンジンを再始動します。

10.11.1 フィルターが濡れたときは

- ▶ 必要に応じてフィルターを乾かしてください。極端な熱にさらさないでください。
- ▶ フィルターの汚れがひどい場合は、フィルターを徹底的に掃除してください。「エアフィルターの掃除」を参照してください。

11 作業中の注意事項**11.1 ならし運転**

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5~15 回分の使用後となります。

11.2 作業中**注意**

必ず水がある状態で作業してください。

**注意**

出力を増そうとして混合比を薄くしてはいけません - エンジンを損傷することがあります - 「キャブレターの調整」の項を参照してください。

11.2.1 チェンの張りを時々点検してください!

ダイヤモンド研削チェンが伸びてきて、たるみ始めます。バー下側のドライブリンクがバーの溝から 15 mm 以上はみ出してはいけません - ダイヤモンド研削チェンがバーから飛び出すことがあります - ダイヤモンド研削チェンの張り具合を再調整します - 「ダイヤモンド研削チェンの張り方」を参照してください。

ダイヤモンド研削チェンがたるみすぎている場合、このためにダイヤモンド研削チェンおよびチェーン sprocket の摩耗が著しく増加することがあります - ダイヤモンド研削チェンの張り具合を再調整してください - "ダイヤモンド研削チェンの張り方"を参照してください。

長期間使用しているダイヤモンド研削チェンに比べて、新しいダイヤモンド検索チェンは頻繁に張り具合を再調整する必要があります。

11.2.2 長時間のフルスロットル運転後

長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品 (イグニ

ッションやキャブレター) を熱から守るためです。

11.3 作業後**11.3.1 短期間の保管**

エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを一杯にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。

ガイド バーおよびダイヤモンド研削チェンを掃除して乾燥させ、腐食保護のため、STIHL マルチスプレーを吹き付けます - 特にスプロケットノーズのベアリングに吹き付けます。エンジンユニットには吹き付けしないでください!

11.3.2 長期間の保管

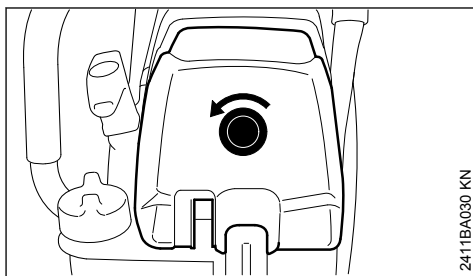
「機械の保管」を参照

12 エアフィルター システム

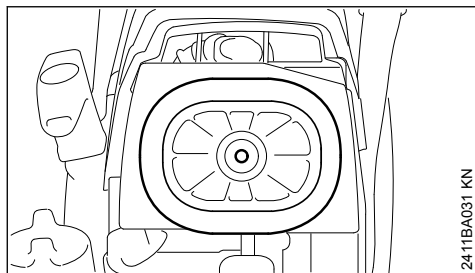
乾燥した状態で、スチールのフィルターは長期間使用できます。

- ▶ スチールのフィルターは、必ず乾燥した状態で使用してください

エアフィルターが汚れるとエンジン出力が低下し、燃料消費量が増加し、始動が困難になります。

13 エアフィルターの取り外し

- ▶ 後ハンドル上方のスクリュー プラグを矢印の方向に回して、フィルター カバーを取り外します - スクリュー プラグはフィルター カバーに固定されています



▶ エアフィルターの取り外し

補助フィルターの取り外しや掃除は、しないでください。

14 エアフィルターの掃除

エンジンの出力が著しく低下した場合は：

- ▶ 必要に応じてエアフィルターを乾燥させます - 高熱にさらさないでください
- ▶ エアフィルターが非常に汚れている場合、フィルターを徹底的に掃除してください

フィルターの徹底的掃除

- ▶ エアフィルターを、STIHL 特殊洗浄剤 (特殊アクセサリ) またはきれいな不燃性の洗浄液 (ぬるい石けん水など) で洗浄します - エアフィルターを内側から外側に向かって流水ですすぎます - 高圧洗浄機を使用しないでください
- ▶ エアフィルターを乾燥させます - 高熱にさらさないでください。圧縮空気で乾燥させないでください
- ▶ エアフィルターにオイルを塗布しないでください
- ▶ エアフィルターを再び取り付けます

エアフィルターが損傷している場合は必ず交換してください。

15 キャブレターの調整

15.1 基本情報

キャブレターは工場出荷時に標準設定されています。

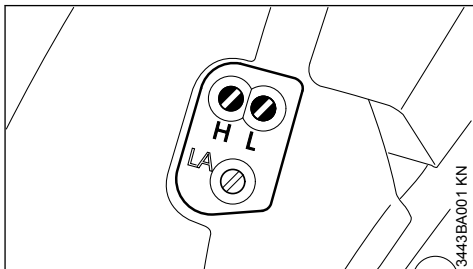
この設定で、大半の作業状況下で混合気が最適化されます。

このキャブレターでは、調整スクリューを用いて限られた範囲内の調整しか行うことはできません。

エンジンの最高回転数は、イグニッションモジュールによって制限されます。そのため、高速調整スクリュー (H) を時計回りにさらに回しても (混合気を薄くしても)、最高回転数を上昇させることはできません。

15.2 標準設定

- ▶ エンジンを切ります。
- ▶ エアフィルターを点検し、必要に応じて清掃するか、交換します。

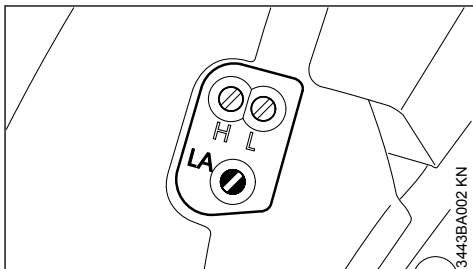


- ▶ 高速調整スクリュー (H) を反時計回りに止まるまで回します (最大で 3/4 回転)。
- ▶ 低速調整スクリュー (L) を時計回りに止まるまで回した後、1/4 回転戻します。

15.3 アイドリング回転数の調整

開始する前に、給水コックを完全に開き、水がダイヤモンド研削チェーンに流れるようにします - チェーンは絶対に乾いた状態で使用しないでください。

- ▶ 標準設定を行います。
- ▶ エンジンをかけて暖機します。



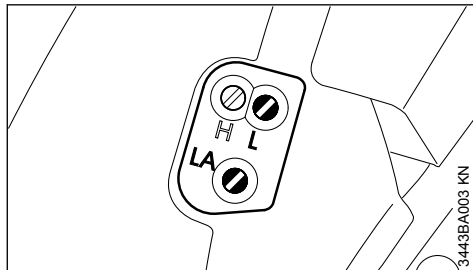
15.3.1 アイドリング中にエンジンが停止するか、チェーンが回転する場合

- ▶ アイドリング回転数調整スクリュー (LA) を止まるまで、またはチェーンが回転し始めるまで時計回りに回した後、1 回転半戻します。

**警告**

エンジンのアイドルリング中にチェンが回転し続ける場合、STIHL サービス店に点検と修理を依頼してください。

15.3.2 (低速調整スクリューが 1/4 回転開いているにもかかわらず)、アイドルリング回転数が不安定で、加速が悪い場合



アイドルリング設定が薄すぎます。

- ▶ エンジンの作動と加速が円滑に行われるようになるまで低速調整スクリュー (L) を反時計回りに回します。

一般的に低速調整スクリュー (L) を調整するたびに、アイドルリング回転数調整スクリュー (LA) の設定を変更する必要があります。

15.4 高地で作業する場合の微調整

エンジンが本来の性能を発揮しない場合、わずかな調整が必要になる場合があります：

- ▶ 標準設定を行います。
- ▶ エンジンを暖機運転します。
- ▶ 高速調整スクリュー (H) を時計回りに (より薄い設定になるよう) 止まるまでの範囲でわずかに回転させます。

注記

高地から戻った後は、キャブレターを標準設定に戻します。

設定を薄くしすぎると、潤滑不足と過熱によってエンジンが損傷する危険があります。

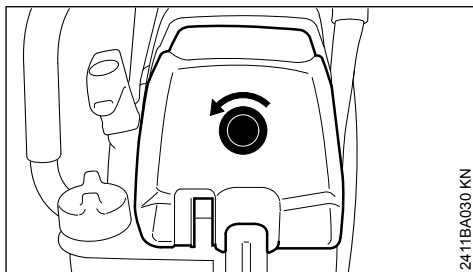
16 スパーク プラグ

- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドルリングが不安定になったら、先ずスパーク プラグを点検してください。
- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパーク プ

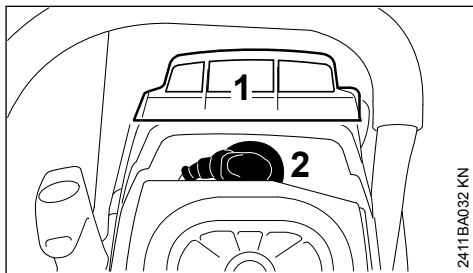
ラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

16.1 スパーク プラグの取り外し

- ▶ 機械から付着した汚れを除去します

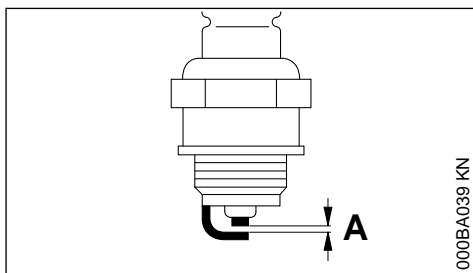


- ▶ 後ハンドル上方のスクリー プラグを矢印の方向に回して、フィルター カバーを取り外します - スクリュー プラグはフィルター カバーに固定されています



- ▶ エアー バッフル (1) を上に持ち上げて、取り外します
- ▶ スパーク プラグ ターミナル (2) を外します
- ▶ スパークプラグを外します

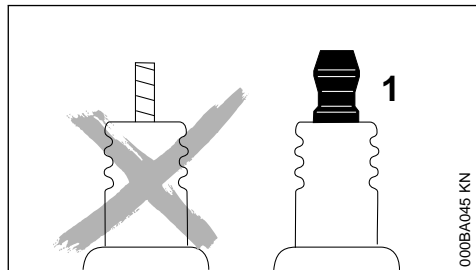
16.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ (A) を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境

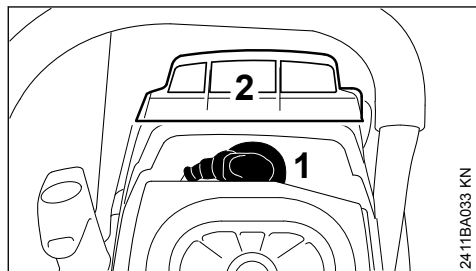


警告

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

16.3 スパークプラグの取り付け



- ▶ スパークプラグを取り付けて、締め付けます
- ▶ スパークプラグターミナル (1) をしっかりと押し込みます
- ▶ エアバッフル (2) を上方に挿入します
- ▶ フィルターカバーを取り付けます

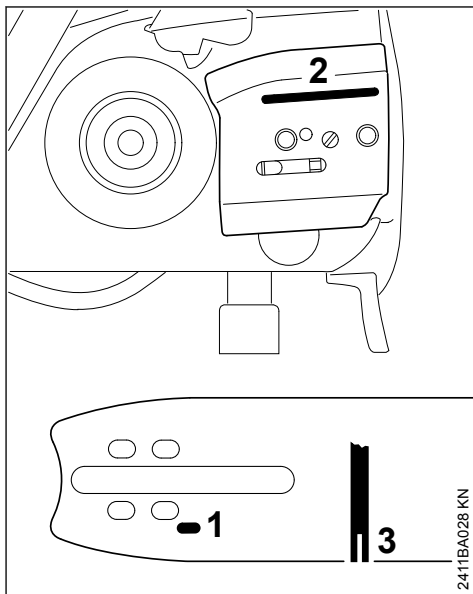
17 機械の保管

機械を約 3 ヶ月以上使用しない場合

- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します
- ▶ 規則に準じて、環境に害を及ぼさないように燃料を廃棄してください

- ▶ キャブレターのダイヤフラムの固着を防ぐため、エンジンを運転してキャブレター内の燃料を空にしてください
- ▶ ダイヤモンド研削チェーンおよびガイドバーを取り外してから、掃除して乾燥させ、腐食保護のため、STIHL マルチスプレーを吹き付けます - 特にスプロケット ノーズのベアリングに吹き付けます。
- ▶ 機械を丁寧に掃除します - 特にシリンダー フィンとエア フィルターに注意します
- ▶ 機械を安全な乾いた場所に保管してください。承認されていない人 (たとえば子ども) が使用しないように、保護します

18 ガイドバーの保守



- ▶ チェンを交換するたびに、特にスプロケット ノーズおよび下部での不均一な磨耗を防ぐため、ガイドバーを反転します
- ▶ 給水口 (1)、水吐出チャネル (2)、およびバーの溝 (3) を定期的に掃除してください
- ▶ ファイリングゲージ (特殊アクセサリ) の測定ツールを使用して、最も磨耗している場所の溝の深さを測定します

溝の深さが 6 mm 以上でない場合:

- ▶ ガイドバーを交換します

そうしないと、ドライブリンクが溝の底面に擦れます - タイストラップがバーに沿いません。

ガイドバーが切り口に引き込まれた場合:

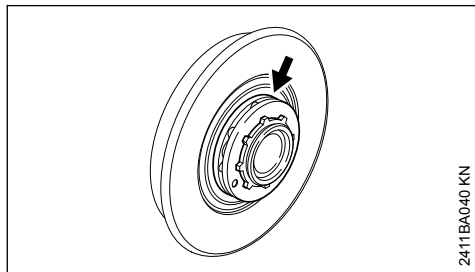
- ▶ ガイドバーに不均一な磨耗がないか点検します (背のオフセット)

- ▶ ガイド バーを反転し、必要に応じてガイド バー ストレートナーでガイド バーの穴を掃除します

19 チェン スプロケットの点検と交換

- ▶ チェン スプロケット カバー、ダイヤモンド研削チェン、ガイドバーを取り外します

19.1 リム スプロケットの交換

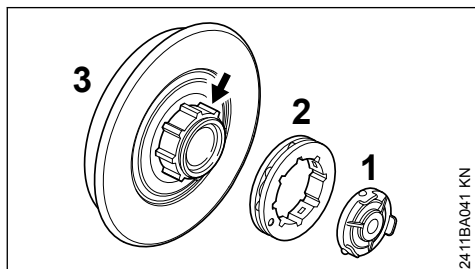


- ダイヤモンド研削チェンを交換する場合、リム スプロケットも交換します
- 磨耗マーク（矢印）が 0.5 mm を超えると、ダイヤモンド研削チェンの寿命が短くなるので、点検ゲージ（特殊アクセサリ）を使用して点検します

2 本のダイヤモンド研削チェンを交互に使用すると、チェン スプロケットの寿命が延びます。

19.1.1 リム スプロケットの取り外し

リム スプロケットのみが取り外された場合、クラッチ ドラムを取り外す必要はありません。

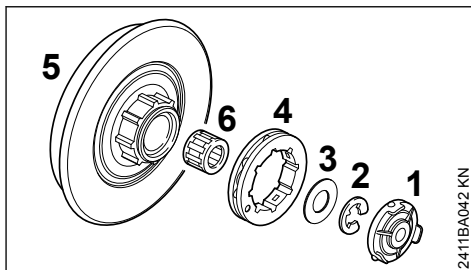


- ▶ キャップ (1) を外します
- ▶ リム スプロケット (2) を外します
- ▶ クラッチ ドラム (3) の形状を点検します - 磨耗がひどい場合は、クラッチ ドラム (3) も交換します

19.1.2 リム スプロケットの取り付け

- ▶ リム スプロケット (2) を取り付けます
- ▶ キャップ (1) を取り付けます

19.2 クラッチ ドラムの交換



- ▶ キャップ (1) を外します
- ▶ リム スプロケット (4) を取り外します
- ▶ スクリュードライバーで E クリップ (2) を外します
- ▶ ワッシャー (3) を外します
- ▶ クラッチ ドラム (5) をニードル ケージ (6) と一緒にクランクシャフトから取り外します

19.3 クラッチ ドラムの取り付け

- ▶ クランクシャフトの根本とニードル ケージをきれいにし、スチール潤滑グリース（特殊アクセサリ）を塗布します
- ▶ ニードル ケージをクランクシャフトの根元に滑り込ませます。
- ▶ クラッチ ドラムを取り付けます
- ▶ リム スプロケットを取り付けます
- ▶ ワッシャーと E-クリップをクランクシャフトに取り付けます
- ▶ キャップを取り付けます

20 ダイヤモンド研削チェンの保守および目立て

20.1 ダイヤモンド研削チェンの保守

作業終了後:

- ▶ ダイヤモンド研削チェンとガイド バーを取り外します
- ▶ ダイヤモンド研削チェンとガイド バーを水ですすぎます
- ▶ ダイヤモンド研削チェンとガイド バーを乾燥させます
- ▶ 腐食保護のため、ダイヤモンド研削チェンおよびガイド バーに STIHL マルチスプレーを吹き付けます - 特にスプロケット ノーズのペアリングに吹き付けます

20.2 ダイヤモンド研削チェンを定期的に点検します

- ▶ ダイヤモンド研削チェンの亀裂およびリベットの損傷を点検します

- ▶ 損傷したまたは摩耗したチェン コンポーネントを交換します - サービス店にお問い合わせください

切れ味が悪いまたは損傷しているダイヤモンド研削チェンを使用しないでください - 身体に大きな負担がかかり、振動が激しく、切断状態が悪く、摩耗が早くなります。

切れ具合が悪化し始めたら、ダイヤモンド研削チェンの目立てを点検して、必要に応じて目立てをします。これには、たとえば砥石、気泡コンクリート、アスファルトなどの研磨剤を軽く切りま

21 整備表

次の整備周期は通常の作業条件を対象としています。毎日の作業時間が通常よりも長い、作業条件が悪い場合 (粉塵が非常に多い場所等) は、それに応じて、表に示された間隔よりも短くしてください。		推奨 作業条件	毎 日 作 業 終 了 後	毎 週 作 業 後	毎 月 作 業 後	毎 年 作 業 後	時 間 経 過 後	時 間 経 過 後	時 間 経 過 後
機械本体	目視検査 (状態、漏れ)	X		X					
	清掃		X						
スロットトリガー、スロットトリガーロックアウト、マスターコントロールレバー	機能テスト	X		X					
手動燃料ポンプ (装備モデルのみ)	点検	X							
	修理はサービス店に依頼してください ¹⁾							X	
燃料タンク内のピックアップボディ	点検						X		
	交換					X		X	X
燃料タンク	清掃				X				
給水、チェンの潤滑状態	点検	X							
ダイヤモンド研削チェン	点検、切れ具合を確認	X		X					
	チェンの張りを点検し、必要に応じて調整。作業中は 15 分ごとに点検し、必要に応じて調整	X		X					
	目立て								X
	掃除して STIHL マルチスプレーを吹き付ける		X						
ガイドバー	点検 (摩耗、損傷、スプロケットノーズの動作)	X							
	掃除して STIHL マルチスプレーを吹き付ける		X						
	反転								X
	バリ取り				X				
	交換							X	X
チェンスプロケット	点検し、必要に応じて交換	X ³⁾					X	X	
エアフィルター	清掃						X		X
	交換							X	
防振エレメント	点検	X					X		

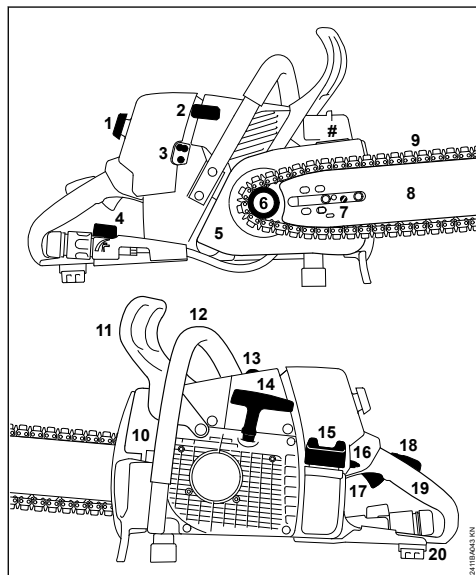
¹⁾ STIHL 社では、STIHL サービス店に依頼されることをお勧めしています

²⁾ 初回使用時は、10～20 時間の運転後に、シリンダーブロックスクリューを締め付けます

³⁾ ダイヤモンド研削チェン取り付け時または交換時

- フィルター (エア フィルター、燃料フィルター)
- リwind スターター
- スパーク プラグ
- 防振システムのコンポーネント

23 主要構成部品



- 1 ツイスト ロック
- 2 スパーク プラグ ターミナル
- 3 キャブレター調整スクリュー
- 4 給水アタッチメント コネクター、開閉コック
- 5 チェン スプロケット カバー
- 6 チェン スプロケット
- 7 チェン テンショナー
- 8 ガイド バー
- 9 ダイヤモンド研削チェン
- 10 マフラー
- 11 前ハンド ガード
- 12 前ハンドル (ハンドルバー)
- 13 デコンプバルブ
- 14 スターター グリップ
- 15 燃料タンク キャップ
- 16 マスター コントロール レバー
- 17 スロットルトリガー
- 18 スロットルトリガー ロックアウト
- 19 後ハンドル

- 20 後ハンド ガード
- # シリアルナンバー

24 技術仕様

24.1 エンジン

STIHL 単気筒 2 ストロークエンジン

排気量:	76.5cm ³
シリンダー径:	52 mm
ピストンストローク:	36 mm
ISO 7293 に準拠したエンジン出力:	4.3 kW (5.8 HP)/9800
アイドリング回転数:	1/min
リミッター作動回転数:	2500 rpm
	13500 rpm

24.2 イグニッションシステム

エレクトロニックマグネットイグニッション

スパークプラグ(雑音防止):	Bosch WSR 6 F、NGK BPMR 7 A
電極ギャップ:	0.5 mm

24.3 燃料システム

燃料ポンプ付き全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量:	780 cm ³ (0.78 l)
----------	------------------------------

24.4 重量

燃料なし、カッティングアタッチメント7.6 kg
なし

24.5 GS 461 カッティングアタッチメント

実際の切断長は、指定された長さよりも短い場合があります。

24.5.1 Rollomatic(ローロマチック) G ガイドバー

バーの長さ (3/8"ピッチ):	30、40 cm
溝幅:	1.6 mm

24.5.2 3/8" ダイヤモンド研削チェン

36 GBM、3210、3213 型	
36 GBE、3211、3214 型	
ピッチ:	3/8" (9.32 mm)
ドライブ リンク ゲージ:	1.6 mm

24.5.3 チェンスプロケット

3/8" 用 8 枚歯 (リムスプロケット)

24.5.4 Rollomatic(ローロマチック) G ガイドバー

バーの長さ (3/8"ピッチ):	45 cm
溝幅:	1.6 mm

24.5.5 3/8" ダイヤモンド研削チェン

36 GGM、3212 型

ピッチ: 3/8" (9.32 mm)
ドライブ リンク ゲージ: 1.6 mm

24.5.6 チェンスプロケット

3/8" 用 10 枚歯(リムスプロケット)

24.6 音圧・音響・振動レベル

音圧・音響・振動レベルは、アイドリリング回転時と最大回転時を 1:6 の比率にして計算されています。

Physical Agents の振動指令 2002/44/EC への適合の詳細については、www.stihl.com/vib/ をご覧ください。

24.6.1 ISO 11201 に準拠した音圧レベル L_{peq}

105 dB(A)

24.6.2 ISO 11201 に準拠した音響出力レベル L_{weq}

115 dB(A)

24.6.3 ISO 19432 による振動レベル $a_{hv,eq}$

ハンドル、左ハンド
ル、右

GS 461

4.5 m/s²

4.0 m/s²

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s² です。

24.7 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No. 1907/2006 の遵守の詳細については www.stihl.com/reach をご覧ください。

24.8 排気ガス

EU 型式認定手順に従って測定した CO₂ 値は、www.stihl.com/co2 に記載されています。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。型式認定は、エンジンを改造すると無効になります。


25 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

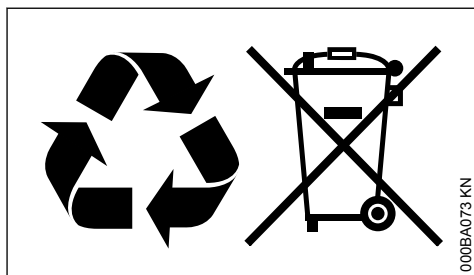
修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボル マーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

26 廃棄

国別の廃棄の規則および規制を順守してください。



スチール製品は、家庭用ごみ入れに廃棄しないでください。製品、アクセサリ、包装は、環境に配慮してリサイクルを行うため、認可された廃棄場に持ち込んでください。

廃棄物処理の最新情報については、スチール サービス店へお問い合わせください。

27 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、独占的な責任下で下記の製品が

名称:

コンクリートカッター

メーカー名 : STIHL
型式 : GS 461
シリーズ番号 : 4252
排気量 : 76.5cm³

指令 2011/65/EU、2006/42/EC および
2014/30/EU の関連する条項に適合しており、製
造の時点で有効であった次の規格のバージョン
に準拠して開発および製造されたことを保証い
たします :

EN□ISO□12100、EN□ 55012、EN □61000-6-1

技術資料の保管場所 :

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示され
ています。

15.07.2021、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Dr. Jürgen Hoffmann

Director Product Certification & Regulatory
Affairs(製品認証&規制担当ディレクター)



28 UKCA 適合宣言

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、独占的な責任下で下記の製品が

名称 : コンクリートカッター
メーカー名 : STIHL
型式 : GS 461
シリーズ番号 : 4252
排気量 : 76.5cm³

英国の規制 - 電気・電子機器に含まれる特定有害
物質の使用制限規制 2012、機械類の供給 (安全
性) 規制 2008、電磁互換性規制 2016 - の関連条
項に準拠し、製造日に有効であった以下の基準の
版に従って開発/製造されました。

EN□ISO□12100、EN□ 55012、EN □61000-6-1

技術資料の保管場所 :

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

製造年と機械番号は、機械本体に表示されていま
す。

2021 年 7 月 15 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Dr. Jürgen Hoffmann

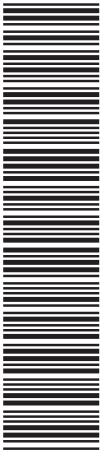
Director Product Certification & Regulatory
Affairs(製品認証&規制担当ディレクター)



www.stihl.com



0458-761-4321-B



0458-761-4321-B